

先日、ある新聞のコラムに、「人の性格は、その人が頻繁に口にする口癖で、案外分かるのではないか」みたいな事が書いてありました。例えば「忙しい」という言葉。忙しい人は「忙しい」と言うけど、そうではなく、のべつ幕なしに頻繁に「ああ、忙しい忙しい忙しい」と言っている人。

実際忙しいんですけど、実は「忙しい事は良い事だ」という人生観で生きている人が多いと。

スケジュール表が1年先・2年先・3年先までいっぱい。そういう風に、忙しいという事はすごく良い。私は忙しい。従って私は良い人生を送っている。

こんな人は、人生のプライオリティ/優先順位が仕事です。「仕事のために、仕事よりもっと大事にしなければならない事を犠牲にしている所以要注意です。あなた。」と書いてあって、私大丈夫か？と。

「そうですねー」が口癖の人。意見があったり、聞かれたりした時は「違います/そうです」のどちらかです。じゃなくて「そうですねー。」これは、相手の意見を聞く努力をしつつ、最終的には自分が立てている計算通りに持って行こうとする辛抱遠慮の技巧派の性格の人が多。

将棋でいうと藤井聡太(ふじい そうた/2002-)だそうです。彼はインタビューされた時、開口一番、必ず「そうですねー」と言って考えている。相手が言っている事を全面的に否定も肯定もせず「そうです・ねー」と言いながら、自分が最終的に持って行きたいところに持って行くという、思考方法が将棋と一緒。

「どうせ」が口癖の人。たまに使うのは日本語だから仕方がない。でも、すぐに頻繁に「どうせ」と言う人は、基本的に自分に自信がなく、人生観が否定的・悲観的・消極的・後ろ向き。

というのは、「どうせ」という枕詞に続くのは否定文になるからです。「どうせ、俺なんか貧乏人だ」。

「どうせ、俺なんて大金持ち」とは言わない。言うたら嫌味や。「どうせ、俺なんか東大卒やから」とか。

だから、口癖というのは、その人の人柄や性格を案外反映しているのではないかと。

そう考えて、昨日自分の動画を何本か見たら、いくつか口癖がありました。

1つは「そんなヤツ、おらんで。」これは『こだまひびき』という漫才師のフレーズで、僕はあの人たちが大好きなんです。そして「実は」。あるメッセージでは14回。実はそうなんです。

それで実はね、あ、これは話の流れで仕方ない。聖書には、頻繁に出て来る聖書の口癖のような箇所があります。それは「**しかし神は**」という組み合わせ。聖書全体で3930回出て来る。

聖書で一番出て来るフレーズ「**しかし神は**」

どういう時に出て来るか?「八方ふさがりで、人間的に見たら何の希望も、どこにもなくて、もう一貫の終わり」という時に「**しかし神は**」が出て来ると、神が何とかしてくださる。

しかも、「**しかし神は**」の一行前の様子が、すっかり変えられてしまうのです。

「最初の人間アダムとエバは、罪を犯してエデンの園を出て行った。**しかし神は**、彼らに約束の言葉を与えてくださった。」「間もなく、全地球を覆い尽くすような洪水が押し寄せて来る。**しかし神は**、ノアとその家族を心に留めておられた。」「人間は罪で無茶苦茶になってどうしようもない。自分で自分を救う事なんかできない。**しかし神は**、ご自分のひとり子をこの世に遣わし、人に出来ない事をイエス・キリストに代わりにさせてくださった。」

毎週日曜日、ここで話している福音メッセージは「**しかし神は**」の物語です。

人はありとあらゆる余計な事・いけない事・ダメな事をやらかしますが、それを神はほったらかしにせず、「しかし神は」と言って、人類歴史の中に介入なさるのです。

もし人類歴史から「しかし神は」を差っ引いたら、今頃人類は滅亡して、存在していないと思いますよ。

「しかし神は」こそは、聖書の福音メッセージの本質を表す言葉ではないか。

そこで今日は、1つの「しかし神は」を紹介したいと思います。

第一ヨハネの手紙 4 章をお開け下さい。ご自分で中々聖書を開けられない方を見ると、私、すごく嬉しいんです。まだクリスチャンじゃない方が来てくださったんですから。この集会は、この時間帯は、そういう方のための集会なんです。とかいって、その人クリスチャンやったりして。皆さん、読みましょうよ。

I ヨハネ 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥め（なだめ）のささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

人間関係はお互い様のところがあって、例えば誰かと話をしている時、こっちが退屈していたら、大抵相手も退屈しています。こちらが「つまらん話を長々して、いつまでやってんねん。いつ終わんねん」と聞いている時は、話し手は「こんないい話、こいつアホやな。頭悪いな。言わんといたら良かった」と思っている。こっちがつまらんと思っていれば、相手もつまらんと思ひ、こっちが退屈していると、大抵相手も退屈しているようなものですよ。

決して退屈させない人がいるとしたらどんな人か？ その人の話を親身になって聴き取る人だと思います。世界の天下国家の情報を知らなくても、自然科学の深遠な真理を知らなくても、自分の深い悩み事について親身に寄り添って、「うん、そうか、そうか」と自分の事のように聴き入ってくれる人がいたら、その人を退屈だと感じる人は誰もいないと思う。

多くの方は「神様の話」とか聞いたら、「うわ、やめとくわ、それ。」「何か堅苦しそうやし、やめとく。」神はあなたが無関心でも、退屈していても、あなたに退屈しない方。あなたに並々ならない関心を持っているあなたの作者だからです。

ちょっと口癖みたいになって申し訳ないんですが、言わねばならないフレーズがあるので、今から言わせてもらいます。聖書が語る神様は人間が作った神ではなく、人間をお造りになったんです。ある集会でこれを言ったら、みんなで合唱になりました。人が作った神々は人を助ける事が出来ない。人をお造りになった方・自然界全部をお造りになった方・全宇宙をお造りになった方、その神はあなたの作者で、あなたを愛していると聖書は語っている。

ある方は、「ちょっと待てよ。宇宙の大きさが分かれば分かるほど、人間の存在は埃以下の小さなものに見えて来る。大きな宇宙を指のわざで造った神が、ちっぽけな人間一人ひとりの事や、人間の髪の毛の数まで数えているなんて信じられない。」

その意見も分かりますが、先日、神を見出した科学者のエッセイを読んで驚いた事があったんです。

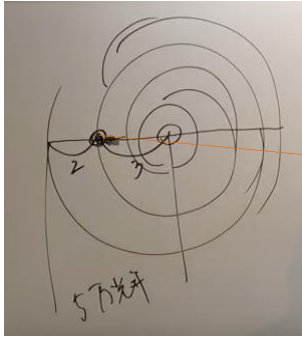
今、宇宙論で最先端の宇宙論を『宇宙の人間原理』と言います。

これは、「宇宙は人間が存在するように出来上がっている」という観点で解釈する学問。

宇宙が今と違った姿なら、我々は存在していないから。

弱い人間が存在出来るようにファインチューニングされている宇宙が、私たちが今住んでいる宇宙です。

地球は太陽系第3惑星。この太陽系を含んでいる銀河系宇宙を、天の川銀河と言います。



上から見た天の川銀河、直径は10万光年。だから半径は5万光年。

1光年は、光のスピードで1年間進む距離。光のスピードが5万年走って行く距離がこの半径。

太陽系は、5万光年の中心から3万光年行った所にあります。

そのエッセイによると、太陽系がこの位置にある事は非常に意味がある。ここにある事によって、天の川銀河全体を観測する事が出来るそうです。もし端っこにあるなら、端っこの構造が分からないんですって。

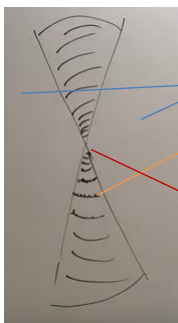
そして、天の川銀河の中心には、分かっているだけで7つのブラックホールがあつて、恐らく30個以上あると言われています。太陽系が真ん中にあつたら、ブラックホールに吸収されて消滅するんです。真ん中でもなく端っこでもない、ちょうどこの場所にある事によって、銀河系の端・中心の構造を知る事が出来る。ただ私は「何で2.5ちゃうねん?」と。中途半端だと思いませんか? 半径5やったら2.5ならちょうど真ん中やのに、2と3で、どうよ。僕の誕生日は23日、関係ない。

天動説は地球が中心で天が回っている。でも、ガリレオが地動説、実際は地球が太陽の周りを回っていると言いましたね。つまり、太陽系の中心は地球ではなく太陽なんです。そして太陽系そのものも銀河系宇宙の中では中心ではなく、ある意味、中途半端な場所にあるんですよ。

ところがそのエッセイを読むと、今、スローン・デジタル・スカイサーベイというプロジェクトがある。スローン財団という所が全宇宙の銀河系の分布の25%を観測できるような、特別な光学天体望遠施設の情報を集めて、全宇宙の地図を作っているんです。これはインターネットで検索する事が出来ます。

全宇宙というのは天の川銀河が全宇宙ではありません。天の川銀河の中には、太陽のようなサイズの星が2000億あります。天の川銀河が何百も集まっているのが銀河団。この銀河団が何十も集まったのが超銀河団。超銀河団が10個くらい集まって輪になっているのが銀河フィラメント。大きいよ。

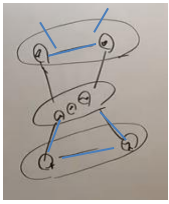
「大きいよ」と言うしかないくらい大きい。つまり、銀河系宇宙は天の川銀河だけじゃないんです。天の川銀河をはじめ、全ての銀河の25%を観測する事が出来るスローン・デジタル・スカイサーベイの画像をインターネットで見てビックリ。こういう写真が出て来ます。



ここは観測できません。全宇宙空間の25%だけ観測できる。
この、線に見えているのは点の集まりで、中心から離れるほど薄くなります。中心に近づくほど密集している。この1個の点が銀河です。星じゃなくて銀河。
そして、ここの中心が地球です。
つまり、太陽系全体の中では、地球は中心ではなくて太陽が中心。

天の川銀河の分布の中では太陽系は中心ではない。だけど、天の川銀河以外の全宇宙の銀河の分布では、地球がちょうど真ん中にある。進化論的な宇宙学者は、これを絶対に認めたくないんです。だから他の説を色々言うけど、観測データでは地球がど真ん中。地球は自転しながら太陽の周りを動いていますね。そして、太陽はじっとしていなくて、天の川銀河をも

のすごいスピードで動いています。地球は自転しながら、移動する太陽について行きながら公転している。天の川銀河の中を回転しながら移動しているので、同じ場所にはいないのです。



冬に星座を見るとオリオン座がありますね。実は、3つの星が所属している銀河と、上下2つの星が所属している銀河は別々なんです。

なのに、オリオン座の見え方は、何千年も昔からこの形で変わっていない。

観測している地球のポジションは刻一刻と変わっていて、観測されている側も動いているんですよ。だけど、地球から見た時だけ、いつもこの形が崩れない。

地球以外の星から見た時は崩れて見えるんです。地球から見た時だけ、いつもこの形になるように動いているというのは、ものすごく作為的な事だと分かりますか？

どれだけすごいかというのを申し上げたいのですが、「だから何なのよ」みたいな。いいんですけど。

聖書に「月は夜をつかさどり、太陽は昼をつかさどり、星は季節をつかさどる。」

星座は季節を司るから、変わったら困るんです。だから『宇宙の人間原理』と言うのです。

人間なんて埃みたいな存在。だけど、宇宙全体の営み・運航の仕方を見ていると、まるで宇宙の主人公は、埃みたいな人類であるように見えるじゃないかと。不思議ですね。

しかし、聖書を見ると何も不思議ではない。そのように宇宙を・この世界をお造りになった創造主がおられる。この創造主は親身になって悩みを共有し、愛してくださる方です。

この間、ある劇団のプロデューサーとお会いしました。この方は今、経済新聞の記者ですが、今年クリスチャンになられたんです。どうしてクリスチャンになったかという、ある日夕焼けを見た時、「うわ、きれい！こんな美しいものをタダで見せてもらっていいんですか?!」誰かに語りかけていたと。

そういう感性、皆さん分かりますか？だって、プロデューサーとして、照明当てて、それでお客さんからお金もろてた。「こんな美しいもの、見せていただいていいんですか?!」という感動。

神はこの世界を白黒に造る事も出来たんですよ。実際、野生動物の殆どはモノトーンでしか見えてない。光の3原則 赤・緑・青。この3つが複合ブレンドされて、色んな色が見えるんです。

カラーで見えるためには、赤・緑・青の受光体を持っていないければなりません。

人間はこの3つを持っています。

だけど、美しい模様をしているキリンや豹やライオンは2つしか持ってない。つまり彼らは白黒。昭和。いや、昭和でもカラーはあった。昭和前半。力道山の時代。色、無くても別にいいじゃない。

しかし神様は人間をお造りになった時、「生まれて来て良かった！」という笑顔を見たかったんでしょう。この世界をフルカラーに造り、それを見る能力を与えてくださったんです。

私たちには嗅覚があります。家内は犬並みの嗅覚で、ホンマすごいですよ。犬に勝つかも知れません。関西空港で麻薬捜索のバイトできるんちゃうか？

匂いがあるから、どこかでコーヒーのいい香りがしたら、カモンみたいな感じで。

香りがなくてもコーヒーはおいしいと思うけど、匂いがあるからいいじゃないですか。

それから味覚。神様は全てのものを、こんにやく味に作る事も出来たんです。

味の無い食べ物は何かとずっと考えていたけど、こんにやくと、ところてんしか思いつかなかった。

もし、全ての食物がところてんの味だったらどうします？生きててもせーない(*つまらない)じゃない

ですか。辛いもん食べて、甘いもん食べて、辛いもん食べたから、もういっぺん甘いもん食べよ。ぶくぶく太る。

神は無味乾燥に作る事が出来たにも拘らず、このように作ったのは私たちに喜ばせたい。楽しませたい。その神が私たちを愛していないなんて、あり得ない事です。神はあなたを愛しておられる。「神がお造りになった最高傑作は人間だ」と聖書は語ります。

ところが、**Iヨハネ4:10** 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥め（なだめ）のささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

私たちの罪のために、と書いてありますね。

人間は創造主である神様から離れて、自己中心の生き方を選び取るようになりました。

神を人生から追放し、神無しで自己完結する人生を作ろうとする生き方を選び、創造主の権威を認めず、自らが神であるかのように振る舞う。そんな世界観で生きる事にしたのです。

創造主から離れた結果、人間の中に罪が入りました。死が入った。

この罪の問題・死の問題が、人間を不幸にしている最大の問題です。

この間の木曜日、**黙示録**の講演をやりました。すごく知的な方で、殆ど聖書を受け入れているのだけど、「進化論だけが…。やっぱり競争原理があるから企業も生き残っていけるし…。」

進化論は競争原理を見て、それを生物学に拝借したのですが、競争する事によって、遅いウサギが速いウサギになる事はあっても、驚になる事はないのです。

種類の枠の中で、競争によって能力が開発される事があるかもしれません。

だけど、進化とは種類の枠内ですごくデキル生き物になる事を言うのではなく、別の種類の生き物にジャンプするという考えです。ジャンプしない。

適者生存で生き残って行くというけど、ゾウリムシという生物を水の中に入れて飼っていると、バクテリアを食べてどんどん増えて行きます。どうやって増えるかというと、ある程度の大きさになったら、体を2つにちぎるんですよ。この2つがバクテリアを食べて大きくなると、またそれがブチッと2つになる。2が4、4が8。やがて水槽がゾウリムシだらけ。それに従ってバクテリアが減りますね。食べ物が減ったら適者生存で「お前に食べもん、やらへんからな！」と生存競争が始まるか？始まらない。

ゾウリムシの体にはセンサーが付いていて、バクテリアが一定量減ると、増えるのをやめるんです。「共存共栄で、ちょっと待とうよ。」バクテリアが一定濃度になるまで、食べるのをやめるんですよ。見習ったらどうですか？ゾウリムシ。

わずかなバクテリアを巡ってどつき合い、「そんなヤツはおらんやろ！」これを言いたかった。つまり、生存競争はないんです。

オオカミは縄張りを持つ動物なので、自分の縄張りによそのオオカミが入って来たら決闘します。だけど殺しません。勝ち目がないと思った方はお腹を、急所を見せる。そしたら降参したという事。それ以上掴みかかり、噛み切り、喉笛切って殺す事が出来ないように、ブロックするものが本能の中に組み込まれているんです。殺し合いなんか起こらない。

人間はどうしますか？殺人事件の42%は家族が犯人ですよ。家族。本来愛し合うべき存在・関係の中で、殺人までやっている。同種族間同士で。今の人間には、野生動物の世界にもないような醜い争いや憎しみ

が横行しているという事です。狂っている。

神がお造りになったものの最高傑作が人間なら、なぜ、そんな狂った状態になっているのですか？

神が狂った状態に造ったのではない。造られた段階では完璧だったのに、創造主に反逆した事によって本能が狂ってしまった。罪が入ったのです。その結果、死が入った。

罪のゆえに、人は神の下（もと）に戻る事が出来なくなりました。

しかし、この罪の解決のために、**私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。**

私たちの罪の赦しのために、イエス・キリストという方をこの世界に送って下さいました。

私たちは罪を犯して、自分で自分を元の姿に戻す事ができない。

「しかし神は」、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。

キリストは、人間の死に方の中で最も苦しい死に方をする事になりました。それは十字架処刑です。

両手両足を釘で貫通され、自分の重みで体が引き裂かれて行く。

しかも、両腕がずーっと伸びて体が下がるので呼吸が出来ない。呼吸するためには、懸垂して横隔膜を緩めないと駄目なんです。呼吸するために、体を懸垂で押し上げながらひと息吸って、またすとんと落ちる。なぶり殺しのような十字架刑を受けられました。

この十字架上の肉体の痛みというのは、計り知る事が出来ません。

しかし、キリストが本当に苦しめたのは精神的な苦痛。人間の罪を背負ってくださったという事。

皆さん、1つでも「悪い事してしまった…」と自覚した時、どんな気持ちになりますか？

ある方から聞いた事です。その方は、保険業界でものすごくカリスマ的なセールスレディ。

契約者数が半端ない伝説的なセールスレディですが、実はかつらなんです。

小さい時に囲炉裏に落ちて、頭皮の1/3に大やけどを負ったので、その部分に髪の毛が生えない。

それを隠すために、かつらを被っていました。

その方が講演で、「ある時、私の幼なじみの2つ年上のお姉さんから手紙が来て驚きました。」

彼女は末期の癌で、「死ぬ前に、どうしてもあなたに打ち明けたい事がある」と。

「2人で囲炉裏のそばで遊んでいて、そのお姉さんが第1発見者だ」と聞いていたのですが、実は彼女が押したんですって。何があったのか分からない。彼女が幼いその方を、炭火が燃えている所にグワッと突っ込んで、ギャーッと泣いて。すぐに外に出て「〇〇ちゃんが囲炉裏に落ちこちた！」

自分がやったのに、第1発見者のような顔して。

一命は取り止めた。だけど、頭皮に大きな怪我を負いました。

「なぜ、あんなバカな事をしてしまったのか…。」ずーっと悔いて悔いて。

まだ若いのに癌になって、死ぬ前に手紙で、その方の髪の毛の理由を洗いざらい全部告白したのです。

手紙を受け取った時、彼女はすぐに行って、安心させてあげたいと思ったそうです。

酷い事だと思うけど、相手はもう後悔して、悔やんでどうにもならない。だから安心させてあげたい。

その人の所に行って「もういいよ。私はあなたを赦します」と言ってあげたい。

だけど、その人のお母さんが大反対して「そんなの口だけ。絶対に復讐に来るんだから！」

それで、とうとう会えませんでした。もう、後味悪くて。

人生の中で取り返しのつかない大きな罪を思い出して、それに向き合った時、どんな気持ちができるかというと、自分で自分を責めるし、嫌な、苦い、苦しい気持ちになるんじゃないですか？

1 個の罪だけでも、その罪が引き起こした結果を真正面から見据えたら、「なぜ、あんな酷い事をしてしまったのか…」と、心が苦しくて苦しくてたまらないんじゃないですか？

1 人の人の 1 つの罪でも、人の心を押し潰すには十分です。

しかし、キリストは十字架の上で全人類の罪を負ったんですよ。その事の重さが分かりますか？

この世界の全ての虐殺事件・ドメスティックバイオレンス・幼児虐待・いじめ・戦争犯罪、これら全部を全く罪のない方がたった 1 人で背負って、十字架にかかってくださったのです。

イエス・キリストは十字架上で、最初に神に祈られたんですね。

ルカ 23:34 「父よ（ヘブライ語でアバ）、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

もう亡くなられましたが、ヤクザからクリスチャンになった方がおられました。高原さん。

高原芳郎（たかはら よしろう）さん。私と「芳」だけが違って、それを「剛一」にしたら高原剛一郎。

主にある兄弟。深夜に『人の形をした鬼』というタイトルで、この方のドキュメンタリー番組がありました。彼のお父さんが飲んだくれのアルコール依存症。女遊びがひどくて、お母さんはいつも殴られてメチャクチャされて。家を出て、お金を取りにたまに帰って来る。そんな事をずっとやっていたんです。

芳郎さんの上にちょっと年の離れたお兄さんがいて、19 歳で家業を継いで一生懸命働くけど、稼いだお金をお父さんがふんだくって行く。どうやったら、お父さんの目を覚まさせる事が出来るだろう？

どうやったら、諫める事が出来るだろう？

「もう、これしかない」と言って自殺しました。電車に飛び込んで。「あなたがやっている事がどんなに酷い事か、これで目を覚ましてくれ！」という意味の抗議の自殺。

それを見て弟の芳郎さんは、「ちよっ、待てや。酷い目に遭わなければならない親父が相も変わらず、生き方変わらず、大真面目に生きて来た兄貴が自殺して、世の中は何て不公平なんだ！よくよく考えたら、世の中はわがままな奴とわがままを我慢させられている人、横暴な奴と横暴な奴の被害を受けている人。大抵、真面目な方が損をして、いい加減な奴の方が得してるやないか。俺は真面目に生きて損をする人生はコリゴリだ。俺は迷惑をかける側に回る。」

何と中学を出て、姫路の暴力団事務所に行って、ヤクザに入門するんですよ。

段々ボディガードとして申し上がり、やがて、押しも押されもせぬヤクザ者になるのですが、元々真面目な人。根が真面目なので、いわゆる遊び人の女の人には魅力を感じない。真面目な女の人が好き。

かなわんな、こんな人。それで結婚するのですが、ヤクザという事を隠して結婚するんです。

ところが、結婚式まで 3 日という時に、服を着替えていて、奥さんが見てしまった。

背中全面、刺青。「えー！こんな人?! あなたっ！約束が違うじゃない！」キーッてなるでしょ、今なら。この時はドタキャンという言葉はない。「ああ、どうしよう、どうしよう…」と言いながら、結婚してしまいました。

そして、男の子が 2 人できます。長男が守君。次男が学君。

長男の守君は知的障害を負っていて、奥さんは本当に苦労しながら育てていました。

子煩悩の高原さんは「この子たちが大きくなって、『守君や学君のお父さんの仕事、なに?』と友達に言われた時に『ヤクザ』、それは可哀想や。やめよう。だけど、やめるのが怖い。だから、やめるんじゃなくて、やめさせられるような事をしよう。」

当時、ヤクザ世界で一番してはいけない事は、組員が覚醒剤に手を出すという事でした。そこで、自ら2年間、打つんです。「俺は、もう薬物中毒になった」と言えば破門される。そうして、ヤクザ世界ときっぱり縁を切って堅気に戻れると思ったら、破門はされたけど、クスリがやめられない。禁断症状が出て、次から次に打ちたくて仕方がない。打てない時は、人の顔をした鬼。覚醒剤は人を3度殺すと言います。まず脳を壊す。人間関係を壊す。最終的に本当に体を殺す。それで、暴れ出したらどうにも出来ない状態。

奥さんは彼がいない時に2人の子供と隠れました。色んな所を転々としながら。でも、どこに引っ越しても絶対に見つける。子煩悩だから、「俺は子供たちを守るために、覚醒剤打ってヤクザをやめたんや!」と、奥さんから2人の子供をふんだくって「俺1人で2人を育ててみせる」とムチャクチャな事を言って。実際にやり始めますが、すぐに行き詰ります。

どうにも行き詰った時、ある晩、2人の子供に聞くんです。「お父ちゃん、もう生きるの疲れた。お父ちゃんと一緒に死んでくれるか?」そしたら、2人とも「うん。お父ちゃんと一緒ならいいよ。」死ぬという意味もよく分かってない。幼子だから。でも、ニコッと笑って「お父ちゃんと一緒なら、死んでもいいよ。」

まず、守君の首に両手をかけて、グッと絞めようとした。その時、守君がニコッと笑いながら、ひと言「おとうちゃーん。」それを聞いた時、今殺そうとしている自分に完全な信頼を持って、お父さんがいい事をしてくれるかのように思っている姿を見て「俺にはできん!」子供を殺害するのを踏み止まりました。

高原さんの実のお母さんはクリスチャンです。彼女の影響で、奥さんもクリスチャンになりました。それで「神に祈って、人生を変えてもらおう」という事が始まって行ったのです。

それをドキュメンタリー番組でやってた。私は特にこのシーン、「お父ちゃん」と言われて、どうしても殺せないで泣き崩れる、その場面の赤裸々な告白を聞きながら、イエス・キリストの十字架を思いました。キリストが十字架にかかった時、両手両足を引き裂かれながら、「アバ（お父ちゃん）」と言ったんです。完全な信頼を寄せている時に、その子にとって不幸になるような事は、親だったら絶対に出来ない。

しかし、イエスは父なる神に、「父よ（ヘブライ語でアバ）、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

「彼らを赦すために、彼らの代わりに、わたしを思う存分裁いてください」という願いです。神が一番守り難い願い、それをキリストは「わたしの願いです」と祈られたし、またこう書いてましたね。

I ヨハネ 4:10 私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

御子イエスを遣わしたのは父なる神です。なので、ここに愛があるのです。弟子のヨハネは、正しい事しかなかったイエスが最終的に処刑されたのを見て、「なぜ、世の中はこんなに不公平なのか?!」と思い、義憤でいっぱいになったかもしれません。「なぜ、不条理がまかり通るのか?!」と、気がどうにかなるような心境だったかもしれません。しかし、聖霊が下った後で分かったんです。

「あれは敗北の姿じゃない。不条理の姿じゃない。ここに愛がある。」

神はこの方法で、私たちへの愛を明らかにしてくださった。

そして、私たちの罪をイエスにおいて、完全に赦してくださったのです。

イエス・キリストは十字架にかかって、7つの言葉を語ります。

6番目の言葉は「テテレスタイ/ 完了した・支払い終わった。」

消費者金融の人たちが一番恐れているのは何だと思いますか？

町では色んなサラ金、最近は無人マシンもあって、1か月以内なら無利子とかね。しないでください。

消費者金融が一番恐れているのは、借金を完済される事なんです。私たちは、貸したら返って来るまで落ち着かないじゃないですか。でも、消費者金融は利子が資源。完全に完済されたら、もう儲からない。利子は返して欲しいが、借金はゼロにしたくない。だから、いかにして利子だけ払わせ、借金を完済させないようにするか、というのが消費者金融の狙いどころ。勉強になりますね。

悪魔も一緒です。「完全な罪の赦しなんかあるもんか！」

いいえ。イエス・キリストが、あの十字架の上で、全部払い終えてくださった。

「あなたの罪の借金は全部、イエスのいのちで支払い終えたのだ」と宣言してくださった。

そして、この方は墓に葬られたけど、3日目に復活したのです。

その復活を見た人の証言が、この第1ヨハネの手紙です。

もしイエスが復活しなかったら、僕は晴れ晴れとして皆さんの前に立てないと思いますよ。

例えば、皆さんが道を歩いていたら、酔っ払い運転のトラックが突っ込んで来て、私があなを「危ない！」と突き飛ばしたので、私が轢かれて死んでしまいました。その時、私の家内や子供たちに何と言ってくれますか？「高原さんのおかげで、私助かって良かった」って言える？

サバイバーズ・ギルト。生き残った事によって、却って責められるという事があるんです。

キリストが私の犠牲となって、ずっと死んだままだったら、私はもう喜びの福音を語る事はできません。

死んで3日目に、死を突き破ってよみがえってくださった。

よみがえる事によって「わたしの身の上で起こった事は、あなたにも起こるのだ」と予告編で知らしめてくださっているのです。

そして、「キリストを信じる者は完済し終わっているのだから、神の前に全く罪ない者として、喜んで迎えていただく事ができる」と聖書は語っているのです。

昔の罪を思い出して、「やっぱり無理や」とか「神様、怒ってるんちゃうか？」とか「もう新しい人生はない」とか。そんな事はありません。キリストは全部支払ってくださったのです。

日本の有名なクリスチャン作家といえば、三浦綾子さんを思うかもしれませんが。その前にもう1人います。

『美しい女』を書いた椎名麟三（しいな りんぞう/1911-1973）さん。

彼がクリスチャンになる前となつてからの作品、全然違いますよね。

なる前の作品は、ここで言えないような内容。「神よ、貴様は」みたいな事を書く。

だけど、イエス・キリストを信じて救われ、次々に非常に暗示的な作品を書いていきました。

その1つ『公園のボート』。倦怠期に入った恋人の物語。クラ子とモリオがボートを漕ぎながらデートしてるけど話す事もなく、もうダレてますねん。その時、蝶々がひらひらと。可憐なところを見せようと思

